

## IV 大会主題・副主題

### 1 大会主題

自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

### 2 副主題

ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成

### 3 副主題設定の理由

全国連合小学校長会は、真摯に研究と実践を積み重ね、我が国の小学校教育の充実・発展と教育諸条件の整備に多くの成果を収めてきた。その成果を踏まえ、新学習指導要領全面実施となった令和2年度京都大会から、研究主題を「自ら未来を拓き ともに生きる豊かな社会を創る 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」として、その実現を目指して取組を進めてきた。

これからの社会は、情報化やグローバル化が加速度的に進展するとともに、様々な社会環境の変化、価値観の多様化も一段と進む等、予測できないほどの変化が起きるとも言われている。また、飛躍的な技術革新の中で進化した人工知能（AI）は、我々の生活に深く浸透してきており、Society5.0の社会では、様々な情報を適切に収集し、分析して、社会の発展に活用することが求められている。一方では、少子高齢化、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、子どもの生命・人権や貧困など多岐にわたる問題が山積している。さらに環境問題や新型コロナウイルスの感染拡大のような、地球規模の新しい問題についても対応していかなければならない。

このように、予測困難な問題が出現する未来社会を子どもたちが豊かに健やかに生き抜いていくためには、初めて出会う様々な問題にも主体的に挑戦し、他者と協働して知恵を出し合い、解決したり、新たな価値を創造したりする力を育成していかなければならない。その原動力として、自らが生まれ育ったふるさとの自然・歴史・文化を学びの原点とし、様々な人とのつながりの中で学び合い、自らの人生や社会をよりよくしていこうとする思いや、持続可能で豊かな未来社会を創り出すことに貢献しようとする意欲を育てることが大切である。そのために、学校では、培うべき子どもたちの資質・能力を明確に意識し、家庭・地域と連携して、社会に開かれた教育課程の実現と検証を図り、効果的なカリキュラム・マネジメントを確立していくとともに、グローバルな幅広い視野で教育活動を創造していくことが重要である。

開催地である島根は、出雲地方、石見地方、隠岐地方から成っている。出雲地方には、神話の時代からの古い遺跡や古代の出雲大社（おおよしろ）社殿跡、鉄製造のたたら跡、国宝の松江城、そして安来節、石見地方には、石見神楽や鷲舞、世界遺産の石見銀山、雪舟ゆかりの庭園、また、隠岐地方には中世動乱期の上皇・天皇の御所跡、隠岐古典相撲、隠岐世界ジオパークなど、どの地方も豊かな自然、歴史、伝統、文化といった地域それぞれの資産や魅力に恵まれている。

島根ではこれまで長く、これらの教育資源（ひと・もの・こと）を活用したふるさと教育を進めてきた。子どもたちがふるさと島根の地域の良さを実感する体験活動や、自らが地域の課題を発見し、仲間や地域の人々と関わり合いながら課題解決に向けて活動するなど、地域と協働して取り組む教育活動により、周囲の人々と生まれ育った地域への愛着と誇りとともに自己存在感、自己肯定感を育んできた。さらにそれらを学びの原点として、地域社会や日本の将来、世界の未来を創造する心豊かな人を育成することを目指している。

我々校長は、今大会を通して、子どもたちが自身の育った地域との確かな絆と学びを原点にもち、主体的に課題解決に取り組み、他者と力を合わせて解決していく力と、社会の中でともに生きる実践的な態度を育み、広い視野に立って地域社会や世界に貢献する人づくりを目指した学校経営を推進していかなければならないと考える。

以上を踏まえ、第74回全国連合小学校長会研究協議会島根大会は、副主題を「ふるさとを学びの原点に 主体的・協働的に学び合い 豊かな未来社会を創る子どもの育成」と設定する。そして、これまでの研究成果を受け継ぎ、大会主題のさらなる追究を目指すとともに、学校経営の責任者である校長の果たすべき役割と指導性を究明しようとするものである。

## 4 シンポジウム

### 【テーマ】

# 豊かな未来社会を創る子どもたちへ

## ～ ふるさと 原点 創造 ～

子どもたちが生きていくこれからの社会は、情報化やグローバル化が加速度的に進展するとともに、様々な社会環境の変化、価値観の多様化も一段と進む等、予測できないほどの変化が起きるとも言われています。また、来たるべき Society5.0の社会では、様々な情報を適切に収集し分析して社会の発展に活用することが求められています。その一方で、少子高齢化、人間関係の希薄化、家庭の教育力の低下、子どもの生命・人権や貧困など多岐にわたる問題が山積している中で、環境問題や新型コロナウイルスの感染拡大のような、地球規模の新しい問題についても対応していかなければならなくなってきました。

このように、予測困難な問題が出現する未来社会を子どもたちが豊かに健やかに生き抜いていくためには、初めて出会う様々な問題にも主体的に挑戦し、他者と協働して知恵を出し合い、解決したり、新たな価値を創造したりする力を育成していかなければなりません。そして、その原動力として、自らが生まれ育ったふるさとの自然・歴史・文化を学びの原点とし、様々な人とのつながりの中で学び合い、自らの人生や社会をよりよくしていこうとする思いや、持続可能で豊かな未来社会を創り出すことに貢献しようとする意欲を育てることが大切であると考えます。

具体的には、子どもたちがふるさとの良さを実感する体験活動や、自らが地域の課題を発見し、仲間や地域の人々と関わり合いながら課題解決に向けて活動するなど、地域と協働して取り組む教育活動により、周囲の人々や生まれ育った地域への愛着と誇りとともに自己存在感、自己肯定感を育んで行くことが重要であると考えます。さらにそれらを学びの原点として、地域社会や日本の将来、世界の未来を創造する心豊かな人を育成することを目指していかなければならないと考えます。そのために学校では、培うべき子どもたちの資質・能力を明確に意識し、家庭・地域と連携して、社会に開かれた教育課程の実現と検証を図り、効果的なカリキュラム・マネジメントを確立していくとともに、グローバルな幅広い視野で教育活動を創造していくことが求められていると言えます。

今大会のシンポジウムでは、大会主題及び副主題を受け、「豊かな未来社会を創る子どもたちへ～ふるさと 原点 創造～」というテーマを設定いたしました。私たちは、これからの社会を力強く生き抜いて行かなければならない子どもたちが、ふるさとを学びの原点として、そこで育まれた志をふくらませ、豊かな社会を創る大きな人材になってくれることを願っています。

本シンポジウムでは、島根県に縁の深い3名のシンポジストの豊かな見識をもとに「ふるさと」「原点」「創造」の視点から未来社会を創る子どもたちへ、私たち校長へのメッセージを語っていただきますとともに、大会主題及び副主題について究明する機会といたします。

## 【シンポジスト】

### 加納佳世子 氏（加納美術館名誉館長）

- ・1944年 韓国・ソウル生まれ。
- ・1945年 島根県能義郡布部村（現・安来市広瀬町布部）に家族とともに引き揚げる。
- ・1967年 広島大学教育学部卒業
- ・1967年 兵庫県尼崎市小学校教諭として勤務
- ・1970年 大阪府吹田市小学校教諭として勤務
- ・2005年 薫英女子短期大学非常勤講師
- ・2011年 安来市加納美術館館長就任
- ・2017年 安来市加納美術館名誉館長就任
- ・現在、父（加納莞菴）の平和思想を広めていきたいとの想いで講演活動をしている。
- ・主著に「画家として、平和を希う人として 加納辰夫（莞菴）の平和思想」（メディアアイランド）ほか

### 小泉 凡 氏（小泉八雲記念館館長）

- ・1961年 東京都世田谷区生まれ（小泉八雲の曾孫）。  
成城大学・同大学院で民俗学を専攻後、1987年に松江へ赴任。妖怪、怪談を切り口に、文化資源を  
発掘し観光・文化創造に生かす実践研究や、小泉八雲の「オープンマインド」を社会に活かすプロ  
ジェクトを世界のゆかりの地で展開する。
- ・2009年 島根県立大学短期大学部教授
- ・2017年 日本とアイルランドの友好親善貢献で外務大臣表彰
- ・現在、小泉八雲記念館館長、焼津小泉八雲記念館名誉館長、島根県立大学短期大学部名誉教授、日  
本ペンクラブ会員
- ・主著に「民俗学者・小泉八雲」（恒文社、1995年）「怪談四代記－八雲のいたずら」（講談社、2014  
年）ほか

### 豊田 庄吾 氏（海士町役場人づくり特命担当）

- ・1973年 福岡県大牟田市生まれ。  
大手情報出版会社リクルートにて、人事、営業、WEBプランニングの業務を歴任。その後、人材  
育成会社ウィル・シードにて電通、三井物産、野村證券、三菱UFJ、国交省などの新入社員・若手  
向け研修講師やトヨタの教育CSRのプログラム作成等を努める。また、経済産業省の起業家教育促  
進事業で、全国300校以上の公立学校にて起業家精神育成、キャリア教育に関する授業実績がある。
- ・2009年11月より、隠岐郡海士町に移住し、高校魅力化プロジェクトに参画。公営塾「隠岐國学習セ  
ンター」の立ち上げに従事し、同センター長に。島根県教育委員会より、島前高校魅力化コーデ  
ィネーターの委嘱も受ける。
- ・2021年 海士町役場人づくり特命担当

## 【コーディネーター】

全国連合小学校長会 調査研究部長